

指ヶ谷町会100周年記念誌

おかげさまで
百周年



指ヶ谷町会



指ヶ谷町会の伝統に心をよせて

町会長 豊島弘江

私ども指ヶ谷町会は、大正9年（1920）に結成されてから創立一〇〇年を迎えました。大正の時代から昭和・平成・令和への歴史をそのままに、戦前戦後の困難を乗り越えて力を尽くされた歴代会長・役員はもとより、会員の皆様に感謝を捧げるとともに心から喜び合いたいと存じます。

令和2年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始め、一年が過ぎました。しかし依然として収束の目途は立たず、私たちの生活様式は大きな影響を受け続けております。一〇〇周年の記念祝賀会も行えず残念ではありますが、記念誌と記念品にて祝いたいと思います。また、昨年の祭礼に大神輿・山車の修復後のお披露目ができて、盛大に立派な渡御となり良い記念になりました。

さて、住環境が著しく変化している中、地域でも様々な問題に直面しています。平成23年より毎年行われている避難所運営訓練は近隣5町会のご協力をいただき町会内だけでなく、地域として訓練の中にも新型コロナウイルス感染症予防対策も備えて参ります。

町会は任意団体ではありませんが、会員が安心・安全に生活してこの町に住んでいて良かったと思える「人と人とのつながりのある町」となりますよう願うばかりです。10年20年と年齢を重ねていく中、私ども世代間の交流をはかり次の世代に期待しつつ指ヶ谷町会の伝統をお一人おひとりのお力で守っていただきたいと願っております。



指ヶ谷町会創立 百周年を祝して

文京区長 成澤 廣修

指ヶ谷町会が創立百周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。
また、豊島会長をはじめとして町会員の皆さま方におかれましては、日頃より文京区政の運営に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

大正、昭和、平成、そして令和と長き時代に渡る様々な活動を通じて築かれた地域社会の暖かい交流や支え合いにより、これまで区の発展は支えられてまいりました。歴代会長、役員、町会員の方々のご努力に重ねて御礼申し上げますとともに、指ヶ谷町会の良き伝統を継承し発展し続けられていることに、深く敬意を表する次第であります。

さて、令和二年は新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中が未曾有の状況を迎えました。文京区においても、保健所を中心として複数のPCR検査センターを設置するなど、万全の体制を整えてまいりました。また、自然災害に対して、文京区土砂災害ハザードマップを更新し、警戒区域や避難所の場所、避難行動などに係る周知について、更なる取組を進めております。指ヶ谷町会におかれましては、かねてより防犯・防災に重点的に取り組み続けております。なお、本年は中止になりましたが防災コンクールや、指ヶ谷小学校避難所運営訓練など様々な分野で例年高い成果を挙げており、地域社会の安全・安心の模範として、感謝の辞を申し上げます。結びに、指ヶ谷町会の益々のご発展を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



一〇〇周年を祝う

元文京区長 煙山 力

わが指ヶ谷町会が創立一〇〇周年を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。

豊島会長をはじめ歴代の役員、会員皆様のご尽力により、今日の日を迎えられましたことに、敬意と感謝を申し上げます。

昭和三十六年春、浦部武夫都議会議員の秘書となって以来、町内の皆さんとお付き合いさせて頂き、もう六十年の月日が経ちました。振り返ってみますと、関東大震災、第二次世界大戦の戦禍を乗り越え、戦後一時期、町会活動が禁止されましたが、わが町内は、営々と地域活動にきめ細かく力を注いでこられた素晴らしい歴史があります。

区内に一五〇以上の町会がありますが、その中でも由緒ある町名で人情に篤い町です。

こうした町で、四〇年近く区政に携わって参りましたが、この町が私を政治家として育ててくれたと云っても過言ではありません。温かい恩義に厚く御礼申し上げる次第です。

区長の時に、防災活動としてD級ポンプ配備の要望に応えました。爾来防災訓練では何回も優勝するほどに成果を上げてくれており、町民として何よりも安心できる町に住んでいる幸せに感謝している日々です。

この町は私の人生のふるさとでもあります。



祝 一〇〇周年

白山神社 宮司
清水 雅裕

指ヶ谷町会が創立百周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

貴町会は弊社氏子中の中でも大規模町会にあたり、町会の大勢の皆様が元日の甘酒提供・あじさい祭り・大祭・年末煤払い等の年中行事に関わり、崇敬者をはじめ氏子中の皆様とのふれあいの場の懸け橋としてご支援ご協力を賜って参りました。

町会内に於かれましても、防災・交通安全・ふれあい広場の提供等、地域の皆様の繁栄にご尽力されてこられた町会役員・会員各位の皆様には、改めて敬意を表したいと存じます。

令和二年度は新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言が発令されるなど、人々の行動が制限され、三密を避けなければならない不自由な年となり、殆どの行事が縮小せざる負えない状況となりましたが、歴史を振り返りましても、我が国は神々への祈りによって疫病を乗り越えて参りました。

幾多の困難を乗り越えて来られた皆様の経験と、知恵を結集し合えば、必ずや困難を乗り越えられると信じております。

一日も早い終息を願いつつ、人情味溢れる指ヶ谷町会が益々ご繁栄されますようご祈念申し上げます。



百周年を祝して

文京区立指ヶ谷小学校 校長
石神 みさ都

指ヶ谷町会が創立百周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

長い歴史の中で、たくさんの方々の困難を乗り越え、素晴らしい発展を成し遂げられた歴代の会長はじめ会員の皆様には、改めて尊敬と敬意を表します。

指ヶ谷小学校の様々な教育活動に指ヶ谷町会の皆様が携わり、支えてくださっています。どの活動にも感謝以外の言葉はなく、大変ありがとうございました。どの活動にも感謝以外の言葉はなく、大変ありがたいと感じております。中でも、印象深いのは年三回開催している学校運営協議会です。その席上で、学校のことを語る際「本校では」と皆様がおっしゃいます。指ヶ谷小学校に対する熱い思いと愛情が伝わり、私自身も学校を大切にしたいという思いを高めていただいております。

地域・保護者と学校が連携して教育活動を進めていくことの大切さは、様々な場面で話題に上がります。大切とは言いながら、実際には困難なこともあります。しかし、この指ヶ谷小学校では、地域の皆様が子供たち温かく見守り、時には優しく、時には厳しく、学校とともに子供たちを育ててくださっています。これからも、子供たちの健やかな成長のため、皆様のお力添えをいただきながら、学校として尽力してまいります。

伝統ある指ヶ谷町会の益々のご繁栄を祈念いたします。

「指ヶ谷」町名由来と町会100年の歩み

前町会長 小澤 一雄

「指ヶ谷」の地は、町屋のできる寛永の中ば頃までは、町並みなく木立の茂った谷地だったようです。東は駒込西片町の高台、北は白山神社の丘陵、西には蓮華寺の高台があり、その間に続く低地が谷を作っていました。

ある時、徳川三代将軍家光が鷹狩りに来た折、「あの谷も遠からず人家ができるであらう」と指し示されたことから「指ヶ谷」の地名になったと言われています。古くは、小石川村に属し、明治44年（1911年）より正式に指ヶ谷町の町名になりました。当時の資料によると明治末期の指ヶ谷付

近は「極めて粗雑な家屋の立ち並んだ田舎町にも等しい町並み」だったようで、明治45年に創設された白山三業とともに町も発展。町会発足の気運も高まり、大正9年（1920年）初代会長・関 幸作氏はじめ地元の有志により結成されました。創成期の我が町会は、大正初期の白山三業地を中心として、現在の白山一丁目の一部および白山通り西側の二丁目の一部で組

織されました。当時の記録によれば、〈533世帯の会員で構成〉と記されております。

戦時中の昭和18年には、大政翼賛会による町会再編成が行われ、都内の町会や自治会に対し整理統合の命令が出され、指ヶ谷町会と西部町会（現在の白山2丁目の一部）が合併されました。また、戦後は占領下GHQの指令で昭和22年3月に町会・自治会の組織は全て一時解散させられました。その後、戦後の混乱と人心の荒廃を救い、平和で安全な住みよい町づくりのためにもと、町会復活の声が挙がり、町会が再編成され、浦部武夫3代町会長を中心に民主的な運営による活動が再び展開されるようになり現在に至っております。

我が町会は、区内で数ある町会の中でも屈指の伝統を誇る町会として、豊かな未来に向かって更なる発展を目指していきたいと念じております。

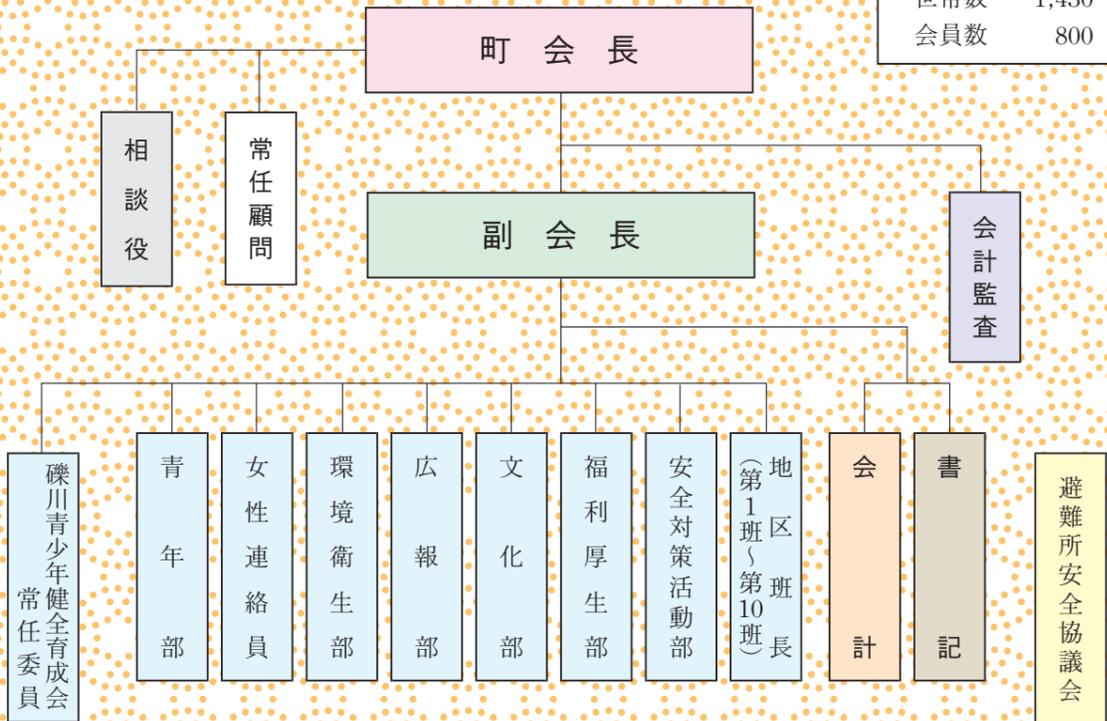
指ヶ谷町会 100年の歩み・沿革

【明治49年（1911）～令和2年（2020）】

年代	町会のニュース（できごと）	世相（重大ニュース）
明治49年（1911）	小石川村から指ヶ谷町の町名になる	
大正9年（1920）	町会発足の気運高まり結成される	第1回国勢調査（人口559.6万人）
昭和6年（1931）	町会名簿作成される	満州事変勃発
昭和9年（1934）	町会大神輿謹製される	ヒットラー総統に就任
昭和15年（1940）	町会創立10周年式典挙行（白山三業公園）	日独伊三国同盟締結
昭和18年（1943）	戦時下隣組組織が生まれる	学徒出陣始まる
昭和19年（1944）	大政翼賛会による統合命令	児童疎開（小学3年以上）
昭和22年（1947）	占領下のGHQによる解散	日本国憲法施行
昭和23年（1950）	町会活動の再開	帝銀事件起こる
昭和60年（1985）	文京区ラジオ体操連盟より団体表彰ベナン授与	東西ドイツ統一
昭和63年（1988）	町会神輿庫を改装	オバマ大統領就任
平成2年（1991）	創立70周年記念祝賀会開催（指ヶ谷小学校）	
平成21年（2009）	文京区防災コンクール3連覇達成	
平成22年（2010）	D級ポンプを消防署より貸与	
平成23年（2011）	消防隊を組織	
令和2年（2020）	創立90周年記念祝賀会（後楽園飯店） 東京ケーブルネットワーク放映 町会結成100周年を迎える	東日本大震災 新型コロナウイルス感染拡大 東京五輪・パラリンピック延期

町会組織図

概要
(2021年1月現在)
世帯数 1,430
会員数 800



歴代町会長





弘前のねぶたをモデルに祭礼の宵宮にお神輿の先導をつとめた。子どもたちが製作したねぶたも登場



「重厚にして華麗」まさにわが町の大神輿は江戸前の粋な存在感を持っている。特に「宵宮」の渡御は美しい（昭和9年謹製・宮惣作）



いつの時代も祭りの主役は笑顔あふれる子どもたち（昭和10年代）。



町会創成期（大正時代）の祭礼風景。遠く高台に木造の誠之小学校。



祭礼夜店は子どもたちのお楽しみイベント。中でも輪なげが大人気。



「さあ…子どもみこしの出発だ！」祭りの文化を子どもたちに継承して欲しい。



昭和30年代の大神輿渡御。仲通りはかつて白山花街として知られた。白山三業見番前にて芸者衆の声援に送られる。



昭和51年、人工芝が張られた後樂園球場で開催された「文京区民夏の祭典」に、当町会の大神輿も特別参加。



白山通りを渡御する神幸祭の神社神輿。白山神社は、天曆2(948)年加賀一の宮白山神社を武蔵国豊島郡本郷元町に奉勧請したのが始まり



神社の行事は、自然と歴史に育まれてきた地域の固有の文化であり、地域の暮らしとのつながりも強い。神幸祭の猿田彦の先導



町内の娘さんたちも「手古舞」姿で盛りあげる。ワクワク感満載（平成5年）



仲通りを埋め尽くして賑わう大神輿渡御。



70周年記念祝賀会で一席披露される橋家文蔵 師匠こと町内生まれの井白さん。人情噺が得意。



紀元二千六百年を記念して、白山三業公園に国旗掲揚塔を設置。(現在は白山神社境内に移設)



戦後一時中断していたラジオ体操会が役員総出で昭和45(1970)年に再開。



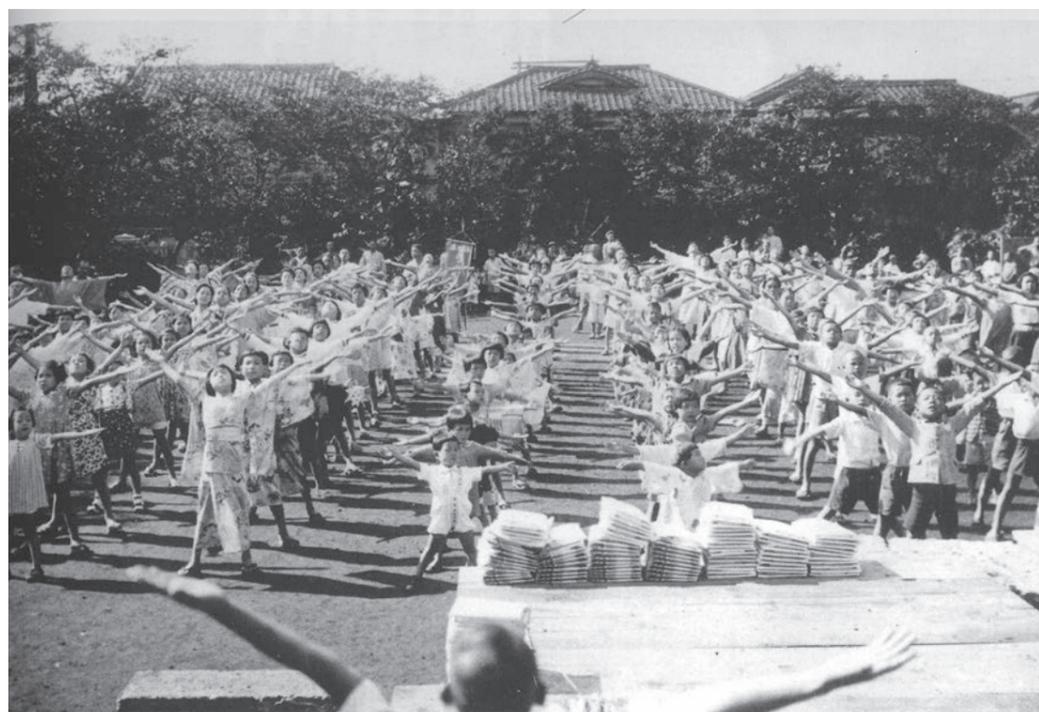
子どもたちを中心に熱心な参加者(100名以上)



平成2年10月、町会創立70周年記念祝賀会を指ヶ谷小学校にて開催。来賓はじめ多数の町会員が参加。



戦前(昭和10年代)の町内ラジオ体操会。子どもたちが中心に大勢の参加。浴衣姿の女の子、当時の風俗や生活模様が伝わってくる。



平成23年2月、町会創立90周年記念祝賀会を後楽園飯店にて開催。「豊かな地域コミュニティづくり」を目指し、多数のご来賓・会員が参加。ケーブルテレビでも放映



文京区ラジオ体操連盟より授与の表彰旗の前で、ちびっ子指導員が大健闘。



昭和3年から始まり、今日まで受け継がれているラジオ体操。写真からも時代の流れを感じます。



夏休み期間中、指ヶ谷小学校の校庭を借りて実施。



旧白山不動尊前で防災炊き出し訓練を実施。



前東京オリンピック（昭和39年）で聖火ランナー、白山通りを走る

聖火が走ったまち



夏休みに子どもたちを中心にお台場の宇宙博見学。昭和53年8月



町会レクリエーション



「町をきれいに」ラジオ体操後にみんなで町内清掃



夏の恒例スイカ割り大会。施設のお年寄りもご招待。



歩け歩け大会。護国寺にて。平成12年10月



茨城県大洗のアクアワールド水族館前にて。平成27年10月



子どもたちも初期消火訓練に積極的に参加する



静岡県三島のスカイウォークへバスハイク。平成29年

文京区長より授与された防災コンクール優勝カップ。日頃の訓練と努力の結晶。



地域防災活動



年末恒例の防災訓練と餅つき大会。校庭で子どもたちの元気な輪ができる



地元の指ヶ谷小学校の運動会にて、我が町会のテント5張り設営。



町内の防災強化のために、区のD級ポンプを配備し、青年部を中心に訓練を重ねている



「防災コンクール小石川地区歴代初の不倒の3連覇！」（平成21年2月）

あとがき

この度、指ヶ谷町会一〇〇周年記念事業の一環として「指ヶ谷町会一〇〇周年記念誌 おかげさまで百周年」発行の運びとなりました。

区内の町会の中でも規模が大きく、歴史の長い指ヶ谷町会。その歴史を身近に感じていただき、未来に向けて更なる組織の強化と活動の活性化につながる礎となれば幸いです。そして、家族や仲間の話題提供のツールとして是非ご活用ください。

発行にあたり、ご祝辞を賜りました皆様には、深くお礼申し上げます。また、貴重な写真や資料のご提供、企画・編集に携わった方々、ありがとうございました。



編集委員

小澤 一雄

米田 和秀

小泉 雄二郎

写真・資料提供

指ヶ谷小学校

小澤 一雄

秋本 康彦

指ヶ谷町会 100 周年記念誌
おかげさまで百周年

令和 3 年 4 月 20 日発行

発行 指ヶ谷町会

印刷 (有)ダイコオー企画

